

米軍によるシリア攻撃に対し、安倍政権は早々に断固支持を表明した。あくまで、決意の支持であり、攻撃そのものには「理解を示す」とどめるなどという、憲法9条的な言葉遊びがシリアの主権を冒瀆している。

支持の理由は「化学兵器の使用」らしいが、そもそも確たる証拠の開示を受けたのか？野党もメディアもそれを問わないところが恐ろしい。

一方で、北朝鮮のミサイル脅威には必要以上に大騒ぎもするし、安倍首相も「弾頭にサリンを！」と脅威を煽る。

しかし、サリン、VXガス、炭疽菌、どれをとっても、作業員によるバラマキほど正確で効率的な戦術はないし、核攻撃にしても、コストも高く精度も怪しいミサイルを使うまでもなく、日本には無防備な核が原発銀座に転がっている。

高村自民党副総裁に至っては、「シリアが攻撃されたのは核ミサイルを保有してないからだ」と北朝鮮が間違った計算をしないでほしい」と、ただの願望を発信する始末である。日本にとっては「間違った計算」でも、北朝鮮にとっては「この道しかない計算」であり、その解は、「フセイン」であり「カダフィ」だ。その是非はさておき、シリアや北朝鮮の必死の戦略には、願望に依拠する日本人の安全保障感覚など、遠く及ばない。

いずれにしても、北朝鮮はまもなく自他

『間違った計算？』

文 白石茂樹 text by Shigeki Shiraishi

共に認める核保有国となるだろう。米国の圧力は、時すでに遅しで、それを抑止することはできない。

「そもそも、核武装という主権は認めざるを得ない」などという、奇人扱いされかねないが、よく考えてみてほしい。

自国の国益は、他国のそれを犠牲にする場合が多く、相手の弱みを見つけ、嫌がることを探して、譲歩させることが外交だ。

願望に依拠する安全保障は、核兵器保有を悪と決めつけ、地震大国にかくも多くの無防備な原発を保有してしまう。現実に依拠する安全保障ならば、核兵器保有は、主権国家として「この道しかない」選択なのである。

わが国は、核兵器攻撃により主権を奪われ、原発事故により国土消失の脅威に直面した歴史をもつ稀有な国だが、「間違った計算」の軌道を変えられない。

「二度と悪いこと？はしません」…中学生の反省文のような憲法9条は、主権を放棄した恥ずかしい宣言にしか聞こえず、30年前にその存在意義を終えている。抑止できない北の核保有に、大騒ぎしたり嘆くだけでなく、現実に依拠する安全保障を、淡々と地道に実行するため、国民一丸となって願望から卒業することが先決だろう。原発を減らす。空母をもつ。在日米軍に核配備を認める。まずは、そこから始めよう。



Profile

安全保障・教育評論家／1964年、福岡生まれ。関西学院大学法学部卒業、横浜市役所、議員秘書を経て現職。著書に『概説戦後学校教育』『武徳教育のすすめ』。



美楽での連載を束ねた百念撰集
『雲涯蒼天』
定価700円
Amazonにて販売中